

南アフリカ共和国の農業

平成6年2月

国際協力事業団

筑波国際農業研修センター

JICA
528
807
TAC
BRARY

筑農七
JR
95-002

27137

JICA LIBRARY



111731011

国際協力事業団

27137

序文

本書は、筑波国際農業研修センターが1991年より毎年実施してきた、南アフリカ特設コースの研修員レポートをベースに、内外の関連資料を参考に「南アフリカ共和国の農業」として取りまとめたものである。

第1章で、南アフリカの農業開発の現状と展望を概観し、第2章では、土地制度を含む農業生産の諸条件、特に農村部の現状把握に努めた。第3章で、各州の農業生産の特色を取りまとめ、最後に資料編として、FAO Year Bookから農業生産の動向を示すデータを抜粋した。

なお、本書は、研修員からの情報を中心に取りまとめたものであるため、正確な南アフリカ農業の現状を伝えているかどうか、やや不安ではあるが、本書に類するような報告・レポート類が未だ少ないところ、関係者の業務の参考にしていただければ幸いである。

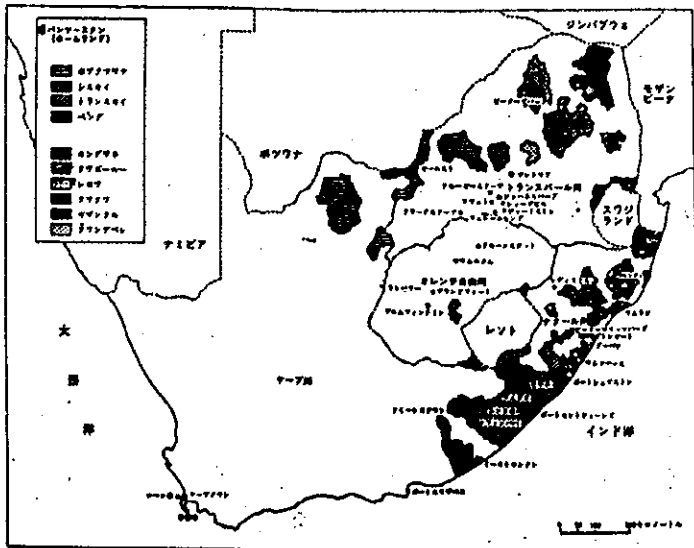
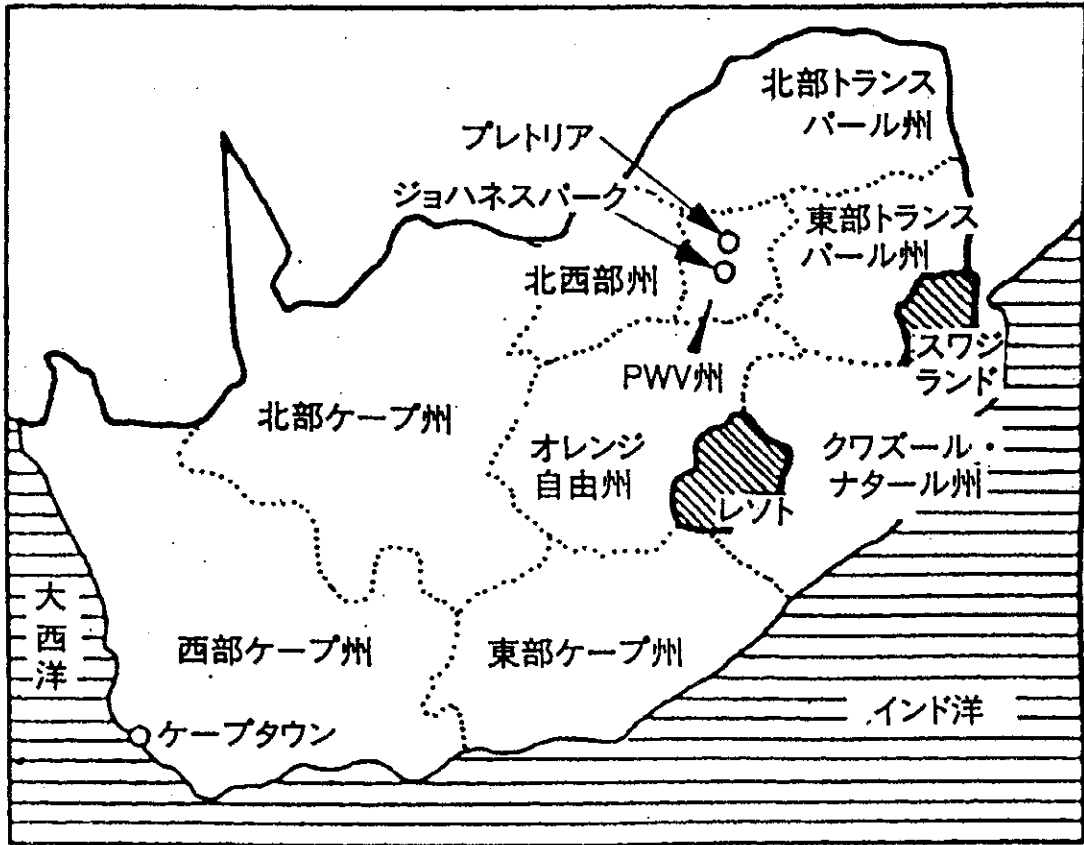
本書の取りまとめにあたっては、平成6年度南アフリカ特設コース「農村開発と小規模農業経営改善」を担当した（財）日本国際協力センター研修監理員大村寿美女史に多大なご協力をいただいた。ここに厚く感謝の意を表する次第である。

1995年2月

国際協力事業団
筑波国際農業研修センター
所長 山縣正安

南アフリカ全図

1994年4月以降の州区分



目次

南アフリカ共和国全体地図

序文

ページ

第1章 農業開発の現状と展望

1. 歴史的背景 ----- 1
2. 国民経済における農業の比重と役割 ----- 1
3. 国の農業開発計画 ----- 1～2
4. 州の農業開発計画 ----- 2

第2章 農業生産の基礎的諸条件

1. 自然条件と地域区分 ----- 3
 - (1) 地形
 - (2) 気候
 - (3) 土壌
2. 土地制度と土地改革 ----- 3
 - (1) 土地制度
 - (2) 土地改革
3. 営農形態と生産技術 ----- 4
 - (1) 大規模農場
 - (2) 小規模農家
4. 農産物市場と流通機構 ----- 4
5. 農民組織 ----- 4
6. 農業金融制度 ----- 5
7. 農村社会 ----- 5～6
 - (1) 農村の社会構造
 - (2) 農村の基盤整備
 - (3) 農村部における諸問題

第3章 各州の農業生産の概況

1. クワズル・ナタール州 ----- 7
2. 北西部州 ----- 7
3. 北部トランスバル州 ----- 7
4. 東部トランスバル州 ----- 8
5. オレンジ自由州 ----- 8
6. 北部ケープ州 ----- 8
7. 東部ケープ州 ----- 9
8. 西部ケープ州 ----- 9

資料編 各種統計図表 ----- 11～15

参考文献 ----- 16

研修員リスト ----- 17～21

南アフリカ共和国の農業

第1章 農業開発の現状と展望

1. 歴史的背景

南アフリカ共和国では、長く続いた白人少数支配下のアパルトヘイト政策により、全人口の7割以上を占める黒人が、面積にして国土の13%に過ぎないホームランド（黒人居留地）に押し込められ、その他の土地所有は禁止されていた。このため、一国内に先進国と第三世界が同時に存在するという、極めて生活水準格差の大きい状態にあった。このような体制下におけるホームランドの農業開発計画は、白人経営の大規模農場をモデルとした、高生産・高収益を通じて雇用の場を創出し、地域社会に貢献することを目標としていたが、実情には合っていなかった。

2. 国民経済における農業の比重と役割

南アフリカ共和国は他のアフリカ諸国の多くとは異なり、工業国であるとの認識をまず持つ必要があり、その規模は、サハラ砂漠以南の経済の4割の比重を占めている。国内総生産(GDP)に占める農林水産業の割合は5%、経済活動人口のうち農業に従事する者の割合は13%であり、全産業における農業の比重は比較的小さい。1992年における農業従事者の総数は1,864,000人に上り、内62%が専業で、残り38%が一時的または季節的に雇用されている。

農村部における小規模農家の主な収入源は給与、年金等非農業部門に頼っており、農業からの現金収入は少ない。しかしながら、貧困層の家庭にとって食糧の自給は、不安定な現金収入を補うものとして生活向上のため重要な意味を持っている。また、農業は一時的なものにせよ、雇用の場を提供し、失業者を吸収する機能をも合わせ持っており、農村部では50-80%の世帯が何らかの形で農業に係っている。したがって、農村開発の結果、小規模農家が発展すれば、飢餓・貧困・失業問題の解決に大きく貢献すると期待されている。

以上を視野に入れば、これからの農村開発は、従来のような大規模農場での増産・最大収量原理のみを念頭に置いたものではなく、むしろ人、特に資源に恵まれない、自給水準以下の小規模農民を支援することを目的にした、人的資源開発型の農民支援プログラム(FSP: Farmers Support Programme)であるべきことがおのずと了解されるであろう。

3. 国の農業開発計画

ここでは、ANC（アフリカ民族会議）の復興開発計画（RDP: Reconstruction and Development Programme）の基本プログラム、基本原理及び農業分野でのガイドラインを挙げておく。

基本プログラム : 1. 基本的ニーズの充足 2. 人的資源の開発 3. 国と社会の再建
4. 経済再建 5. 国と社会の民主化 6. 再建開発計画の実行

基本原理 : 1.総合的かつ持続可能な計画 2.国民の参加による計画推進
3.国民のための平和と安全の確立 4.国家建設
5.再建と開発の連結 6.南アフリカ共和国の民主化

農業ガイドライン：以下のことを保証するため、農業資源への平等なアクセスとその最も有効な利用を図る。

- 1.購入可能な価格の食物と繊維製品を全国民に十分供給する
- 2.全国民の人としての尊厳を保てる生活
- 3.持続可能な農村開発
- 4.雇用創出と貧困問題の解決
- 5.技術、投下労働量及び事業努力に対する正当な対価
- 6.経済開発への農業の貢献を最大限に実現
- 7.次世代のための天然資源の保全

すなわち、復興開発計画（RDP）において農業に期待されているのは、農業生産が質的・量的に強化されること、それにともない農村の生活及び社会福祉の水準が改善されることである。しかしながら、具体的な政策は提示されておらず（1995年2月現在）、今後の課題となっている。

4.州の農業開発計画

新体制下の南アフリカ共和国は9つの州(Province)からなり、各州は3～4の地域(Region)、各地域は更に細かい行政区域(Magistrateral District)に分割されている。この下に最小の行政単位である区(Ward)がある。

復興開発計画の実行は州政府を単位として行われ、各州政府が策定した農村開発政策の施行は、農業局（州によっては環境農業局）の担当となっている。たとえば、東部トランスバル州の基本政策は農民の定住、特にアパルトヘイトにより土地を奪われた黒人農民の一定面積の農地への定住であり、クワズル・ナタール州では土地改革及び農民の能力開発である。

ここで、クワズル・ナタール州を例として農業技術普及の体制、方法等を紹介しておく。この州には1992年現在242人の農業技術指導員、71人の家畜衛生指導員、66人の生活改善指導員、32人の林務官がいる。これらのスタッフは26の行政区域を単位として配置されており、20人からなる専任農業技術指導員が中核グループとして地域事務所に、さらにその上に6人の上席専任農業技術指導員が州政府に詰めている。専任指導員から一般指導員へ、一般指導員から農民へというルートで農業の知識・情報・技術が伝達される。指導員は主に、移動研修車による視聴覚教育を行っており、農民は次のようなテーマについてのビデオを見ることができる：「トウモロコシ栽培」「ブロイラー飼養」「狂犬病の危険」「肉牛出荷」。他のテーマについても希望により視聴可能である。また、指導員が通常巡回できない遠隔地の農民のためには、25分間のラジオ番組が放送されている。州では、野菜栽培の技術普及の目的で小規模共同菜園（通称コミュニティー・ファーム、総面積0.5-2.0ha、25の小区画に分割）の設立・運営を推奨しており、1菜園当たり10-200人の参加者がキャベツ、トマト、ハウレンソウ、タマネギ、カブ、ニンジン等を栽培しており、州全体で1,328箇所、会員数は55,736人に上っている。

第2章 農業生産の基礎的諸条件

1. 自然条件と地域区分

南アフリカ共和国はアフリカ大陸南端に位置し、スワジランド、モザンビーク、ジンバブエ、ボツワナ、ナミビアと国境を接し、領土内にレソトが存在する。

(1) 地形

国土は、平均標高1,200メートルの中央高原地帯、西部の砂漠地帯、東部のナタール海岸地帯及び南部のケープ沿岸地帯の4つに分れる。中央高原地帯が国土の大半を占め、北部・東部トランスバル州、PWV州、北西部州、オレンジ自由州及び北部ケープ州に広がっている。

(2) 気候

中央高原地帯は夏比較的涼しく、冬は気温が下がる。西へ行くにつれて雨量が少なくなる。東部のナタール海岸は亜熱帯性で気温が高く、湿潤である。南部のケープ沿岸地帯は地中海性気候で温暖、冬に雨が多い。

全国的に降雨量は限られているが、降る時は豪雨が多く、表土流出を招いている地域もある。過去3年間は連続して早魃に見舞われ、農業生産に大きな打撃を与えており、1995年も早魃の警報が出ている。

(3) 土壌

気候同様変化に富み、酸性土壌の地域が多いが、場所によってはアルカリ性土壌や塩類濃度の高い土壌も見られる。耕作適地は少なく、全国土の10%程度だといわれている。

2. 土地制度と土地改革

(1) 土地制度

農村部では、部族に伝統的な土地保有制度が慣行的に行われている。すなわち、共有地は首長の管轄にあり、首長が部族民に土地を割り当てるようになっている。誰がどこの土地を耕すかを決めるのも首長であり、首長はある農民の耕作権をその一存で取り上げ、他の農民に与えることも可能である。このため農民の労働意欲の減退、資本投下の妨げ等の原因にもなっている。また、共有地が大小の土地所有権保有者、小作農民、女性農業者、家畜所有者、非農民の間で共同利用されている場合でも、土地は一般的な経済原理とは異なる伝統的価値観で捉えられており、売買の対象や融資を受ける際の担保とはなり得ず、農業の発展を妨げている。

(2) 土地改革

マンデラ政権は5年間で30%の土地を黒人に分配することを目指しているが、白人から強制的に土地を取り上げるのではなく、黒人に補助金を出して市場で土地を入手できるようにするものであり、その前途は多難であろう。

現在農村部では、ひとにぎりの商業ベースの農場を除いて、圧倒的多数の農家が自立できる水準以下にある。これら小規模農家の自立を目指して、各州で総合的な問題解決が図られ、様々なパイロット・プロジェクトが進められている。

3. 営農形態と生産技術

(1) 大規模農場

旧体制下では公的・私的普及活動の対象は、大規模農場・商業ベースの農場のみであった。これらの農場経営者たちは、土壌診断に基づいて処方された肥料を散布し、主として主要穀物（トウモロコシ、小麦）、豆類、工芸作物（サトウキビ、綿花）、野菜（市場から離れた地域ではタマネギ、ジャガイモなど日持するものに限られる）、ワイン醸造用ブドウ、その他の果樹を栽培するか、または大規模な畜産を行っている。作物栽培における耕起、畝立て、播種、植付け、除草、収穫等一連の農作業は機械化されている。輪作を行うのが一般的である。農業資材の調達も都市部の業者からの一括大量購入が可能である。

(2) 小規模農家

小規模農家・自給農家は、トウモロコシを主軸に他の作物と組み合わせて耕地利用を行っている場合が多い。トウモロコシを表作に、裏作として野菜を栽培したり、トウモロコシとヒマワリまたは豆類との混合栽培を行う。混合栽培は、種子を混ぜて播種するか、小さい区画に分けて植えるか、あるいは畝の間に間作をする。一般に野菜圃場の規模は小さく（0.5ha程度）、一区画は1×2mないし1×4mで同一区画内に数種類の野菜を混植する場合が多い。生ゴミ等の有機物を肥料とすることが多く、農作業の大半は手作業である。野菜栽培は直播きか育苗された苗を移植して行われる。

4. 農産物市場と流通機構

トウモロコシ、小麦等の主要作物はそれぞれの統制取引所を通じて流通しているが、これらの取引は今後規制が緩和されて行く予定である。野菜の流通は大都市部での自由市場を通して行われている。

大規模農場・商業ベースの農場は、通常民間運送会社を使って、大都市市場に生産物を出荷している。農場によっては都市の青果市場と契約を結び、市場側の消費動向予測に基づいて需要が期待される野菜・果実を生産する。商業ベースの農場と一部の小規模農場は直接スーパーと取引をしたり、契約により食品加工工場に生産物を売ったりするが、小規模農場の場合は自由市場での売却が普通である。この場合、都市部の市場に出荷するのではなく、地元市場で売りさばくのが一般的である。自給農家で余剰生産物が出た場合も同様である。一般的に流通経費は高く、市場の競争は激しい。品目によっては市場が外国資本のプランテーションの支配下にあることもある。

5. 農民組織

現在、地域社会から全国レベルまでの農業協同組合の設立が進められており、クワズル・ナタール州内にはすでに約736の農協が存在する。これらの農協の主たる役割は農業資材の調達・分配である。

6. 農業金融制度

農村部には、頼母子講的な伝統的・私的金融システムが存在するが、小規模農業の発展のためには農業協同組合等による組織的な金融事業が重要な役割を果たすと期待される。システムの立ち上がりにはかなりの政府資金援助を必要とするであろうが、将来的には農民自身の預金・出資金が原資となることが望ましい。一般銀行の融資は通常、規模の大きい農場に限られており、零細農民が融資を受けることは難しい。

7. 農村社会

(1) 農村の社会構造

南ア農村部の階層分布分析例によると1%が商業ベースの農家、13%が自給水準ぎりぎりの農家、56%が自給水準を大きく下回る農家、30%が小作農家となっている。すなわち、ごく一部の商業ベースの農家を除いては、自立には程遠い状態である。男性は大都市の工場、鉱山、白人所有の大農場等の労働者として出稼ぎに出ており、農村には女性、老人、子供が残されている。伝統的に農作業は男性の仕事で、女性は家事を担当するが、男性不在のため女性が両方を引き受けざるを得ず、重労働と重い責任を負っている。これらの家庭は、たとえ経済統計的には平均額に近い支出をしていたとしても、実際には非常に貧しく、家具はほとんど所有せず、ぜいたく品を購入する余裕はない。

(2) 農村の基盤整備

基盤整備の状態は極めて悪く、水道、電気のないところが大部分である。家庭用燃料の種類がインフラストラクチャーの良い指標となり得るが、おおむね次のような割合である。石炭・薪ストーブ：70%、たき火：11%、ガス：10%、電気：7%、灯油コンロ：2%。このため、水くみと燃料用の薪集めに、各々毎日平均3-6kmずつ歩かなければならず、週に10-12時間の労働が費やされている。

(3) 農村部における諸問題

農業開発に係わる問題以前に、次のような緊急に解決すべき社会的な問題が山積みされている。貧困（農村部の人口の半数以上が食うや食わずのレベル以下の生活水準で、大部分が貧困層に属する）、飢餓（競争がないため食料品の値段は高い）、高失業率、人口増加、労働力不足（出稼ぎの結果除草等季節的に集中する作業を行う人手が足りなくなる）、低い識字率と教育水準（最も基礎的な4年間の初等教育でさえ受けることが困難である）、住宅問題等とそこから起こる犯罪の増加、政治的闘争、人心の荒廃などの社会不安である。

これらの問題は、農業開発の現場では、経営能力の不足、農業技術に関する知識不足（農民だけでなく、指導員・普及員に関しても指摘される）、知識・情報の伝達に円滑さを欠く、農業用機械・器具の不足、資材の欠乏（改良品種の種子、肥料等）、資本金の不足（土地を所有していないため、これを担保として融資が受けられない）として表面化し、また遠隔地であるため流通経費が高く、市場は競争が激しく、価格が不安定であるため農産物の出荷に対して正当な対価が得られないこともあり、利益があっても金融業者、商人、地主などに吸い上げられてしまうことも多い。農村部では地域のまとまりがなく、また指

導力が発揮できる人物も十分に育っておらず、農民が一致協力して開発に当たれないなど、深刻な問題を抱えており、これらが悪循環を繰り返しているのが現状である。

第3章 各州の農業生産の概況

1.クワズル・ナタール州 (Kwazulu Natal Province)

インド洋に面した東海岸沿いの州である。総面積3,607,360 haで、うち10%強の面積が耕作可能地である。4つの地域、26の区域からなる。亜熱帯性気候で降雨量も多く、工芸作物として、湿潤な地域でサトウキビが、やや乾燥した地域でワタが栽培されている。

サトウキビ：総栽培面積88,000ha、栽培農家戸数39,500戸、平均収量 18.5 t/ha

ワタ：総栽培面積 2,100ha、年間生産量 10,207t

州内には736の農業協同組合があり、主として資材購入・販売機能を担っている。農協は、区レベルから国レベルまで組織されている。

州農業局では、野菜栽培技術普及の目的で共同菜園（コミュニティー・ファーム）の運営を推進している。全州で約1,328ヶ所に上り、25の小区画に分割された総面積0.5-2.0haの菜園で、1ヶ所当たり10~200人（全体で約55,736人）の参加者がキャベツ、ホウレンソウ、タマネギ、カブ、ニンジン等を栽培しており、比較的規模が大きく（4~50ha）、小規模灌漑設備のあるところでは商業生産を行っている。

2.北西部州 (North West Province)

トランスバル地方の北西部に位置し、東部、中央部、および西部の3地域よりなる。各地域は更にいくつかの区域に分れており、各区域に普及員、家畜衛生指導員、獣医師、共同体開発官、各1名が配属されている。農業中心の州であるが、東部では鉱業も重要である。

主要作物はトウモロコシで、主に中央部で栽培されている。その他小麦、ワタ、ヒマワリ、落花生、ソルガム、豆類があり、うち小麦、ヒマワリ、落花生は東部で、ワタは西部で作られている。西部は降雨量が少なく、主として牧畜が行われており、灌漑設備のあるところを除いては作物栽培は行われていない。東部は土壌・気候条件から野菜及び果樹栽培に適している。この地方では地下水が豊富で、ハルテピースフォンテインダムからの灌漑用水が利用できる。

3.北部トランスバル州 (Northern Transvaal Province)

本州は南回帰線下にあり、気候は、高温で乾燥している。年間降雨量は400-800 mm、気温は冬季10-27℃、夏季25-40℃である。主要作物はトウモロコシ、トマト、タマネギ、オクラ、キャベツ等で、トウモロコシの収量は乾燥地帯で3-4 t/ha、灌漑地帯で10-14 t/haとなっている。

大規模農場では耕起・畝立てなどが機械化されているが、経営面積2-5haの小規模農場では手作業で行っているところも多い。輪作、畝ごとの植えつけ、施肥等はほとんどの農場で実施している。亜熱帯性の木本性作物を栽培している農場の一部では、木が若いうちは樹間に野菜を栽培することもある。

4. 東部トランスバール州 (Eastern Transvaal Province)

南部および北東部は農村地帯であるが、耕作できる土地は限られており、灌漑できる土地もごくわずかである。北部・西部の大部分では、旱害抵抗性のある牧草による準粗放的畜産が行われている。本州の農林水産物としては以下のようなものがある。畜産（肉牛、羊、山羊）、酪農、狩猟、養殖水産物（ワニ、ナマズ、ガリバルディ、マス等）、野菜（40種類以上）、香辛料、紅茶、コーヒー、ナッツ類、パプリカ、トウモロコシ、小麦、タバコ、ソルガム、ヒマワリ、落花生、林産物。

クワーマーランガ区域の総面積は3,270k、高度900-1,500mの高原であり、年間降雨量は北部、中央部、南部がそれぞれ500-600 mm、600-700 mm、700-800 mmで、気温は冬期氷点下に下がり、夏は35.6℃まで上がる。52%の土地で商業ベースの農業が可能である。

5. オレンジ自由州 (Orange Free State)

平均年間降雨量は600-700 mm、冬は極寒で最低気温は-13℃まで下がり、最高でも-1℃にとどまる。逆に夏は暑く、連日35℃に達する。土壌は特にやせてはいないが、非常に肥沃でもなく、pHは5程度で粘土質であり、養分の不足を補う必要がある。地形は起伏に富み、野菜栽培よりは、牧畜に適している。本州は農業が盛んで、特にこの地域は農業生産の中心地である。主要作物はトウモロコシ、小麦、豆類であり、1994年の生産高はトウモロコシ900,000トン、豆類150,000トンであった。野菜は自給用でわずかに余剰が売りに出されるに過ぎず、統計はない。主な種類は、生産の多い順に次のとおりである。キャベツ、ジャガイモ、トマト、豆類、ニンジン、カブ。

トウモロコシは耕起直後に播種し、畝は1 m間隔の2畝を2.5 m間隔で作し、畝間に豆類やカボチャを間作する。野菜は直播か、苗を移植するが、キャベツ、トマト、タマネギなどは移植が一般的である。

6. 北部ケープ州 (North Cape Province)

州の総面積は363,389 km²で国土の29.7%を占めるが、人口は約80万人で全人口の1.9%しかなく、全国で最も人口密度の低い州である。州の80%の土地が農地だが、耕作可能地はそのうちわずか0.6%の225,240haで、残る28,721,622haは自然放牧地として使われ、10~20haを単位として家畜群が飼養されている。

オレンジ川沿いに灌漑設備のある集約農業生産地帯があり、トウモロコシ、小麦、野菜、ワイン用ブドウ、果物が生産されている。

畜産は準集約的ないし粗放的に行われており、肉牛、羊毛用及び肉用羊、山羊などが飼われている。酪農は消費地である都市に近く、自生する牧草を補完する飼料用作物の生産が可能な地域に限られている。ニワトリは農村部の家庭の多くで蛋白源として飼われているが、大規模養鶏は少ない。

狩猟・観光目的のゲームパーク経営が、通常の畜産業には不適な乾燥地域で近年盛んになってきている。

7.東部ケープ州 (Eastern Cape Province)

亜熱帯にあり、年間降雨量は約600mmで冬に多い。主要作物はトウモロコシで、その裏作として野菜が栽培されている。野菜は自給用で、余剰が出れば近隣で売却される。輪作が実施されており、ジャガイモ栽培はイモの緑化と虫害を防ぐため、畝を立てて行われ、灌水、肥培管理、除草（クワを使用）、収穫等の作業はすべて手作業で行われる。有機物を肥料として利用している。

8.西部ケープ州 (Western Cape Province)

南西部に位置し、インド洋と大西洋に面している。北部は砂漠で雨量はごく少なく、夏暑く、冬寒い。南部では降雨量が多く（年間700-1,500mm）、主として冬期（3月-8月）に降る。山が高く、降雪があり、融水がダムに水を供給する。これが夏期の果樹・野菜栽培のための灌漑水源となっている。

主要作物は小麦（収量45 t/ha）、トウモロコシ（収量38 t/ha）および野菜である。野菜は、良質な土壌と十分な灌漑用水に恵まれた地域でキャベツ、ジャガイモ、ニンジン、カブ、サツマイモ、キウリ、トマト、レタス等が栽培されている。

州の中央部のカルー地域は、孤立峰や山脈のある広い平原で、気候は夏の高温、冬の低温と季節的及び長期化した旱魃が特長である。アルカリ性及び高塩類濃度の土壌が多い。植生は南部が乾燥低木高原、北西部がブッシュマングラス(*Stipagrostis obtusa*, *S. uniplumis*)が優勢な草原で、山岳部は灌木林や草地である。ここでは自然の半砂漠性植生に依存して、小型家畜の生産が行われており、中央部と東部では羊毛用羊、西部では肉用羊、南部ではモヘア用のアンゴラ山羊が主として飼われている。自生する牧草を補う飼料としてアルファルファ、冬作穀物（小麦、大麦、エンバク、ライムギ）、トウモロコシ、ライグラス類(*Lolium* spp.)が作られ、緊急避難的にはオールドマンソールトブッシュ(*Atriplex mummularia*)やトゲのないサボテン(*Opuntia* spp.)も利用される。

資料編

- 表1：農業人口
- 表2：土地利用
- 表3：灌漑農地面積
- 表4：小麦の生産量
- 表5：トウモロコシの生産量
- 表6：エン麦の生産量
- 表7：バレイショの生産量
- 表8：落花生（殻付）の生産量
- 表9：ヒマワリ種子の生産量
- 表10：ブドウ／ワインの生産量
- 表11：サトウキビの生産量
- 表12：キャベツの生産量
- 表13：トマトの生産量
- 表14：ニンジンの生産量
- 表15：柑橘類の生産量
- 表16：イチゴ／綿花の生産量
- 表17：家畜頭数（馬／牛／豚）
- 表18：家畜頭数（羊／山羊／鶏）
- 表19：食肉計／馬肉／家きん肉の生産量
- 表20：牛・子牛肉／羊・子羊肉／山羊肉／豚肉の生産量
- 表21：牛乳／チーズ／バター及びギーの生産量
- 表22：濃縮乳及び練乳／全粉乳／脱脂粉乳及びバターミルク粉末の生産量

表1 人口（1992年、×1,000）

推定総人口	39,818	経済活動人口	14,274
農業人口	5,820	農業従事人口	1,864 (13.1%)

表2 土地利用（1991年、単位：1,000ha）

総面積	122,104
耕地	12,360
永年作物地	814
永年草地	81,378
森林及び林地	4,515
その他の土地	23,037

表3 かんがい農地面積（1991年、単位：1,000ha）

1,130F（耕地面積の約9%）

表4 小麦

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000ト)
1979-81年	1770	1105	1966
1990年	1550	1098	1702
1991年	1418	1504	2132
1992年	743	1708	1269

表5 トウモロコシ

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000ト)
1979-81年	4900	2315	11322
1990年	3475*	2506	8709
1991年	3026*	2757	8342
1992年	3452*	905	3125*

表6 エン麦

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000ト)
1979-81年	220	355	78
1990年	700	56	39
1991年	620	50	31
1992年	600F	67	40F

注1)F：FAO推定値

注2)*：非公式数値

表7 バレイシヨ

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トﾝ)
1979-81年	57	13304	747
1990年	75F	16920	1269
1991年	75F	18440	1383
1992年	75F	16000	1200F

表8 落花生(殻付)

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トﾝ)
1979-81年	245	1193	297
1990年	120	925	111
1991年	86*	1279	110
1992年	219*	530	116*

表9 ヒマワリ種子

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トﾝ)
1979-81年	342	1130	390
1990年	520	1079	561
1991年	575	1024	589
1992年	454*	383	174*

表10 ブドウ/ワイン

	収穫面積 (1000ha)	ブドウ 収量 (kg/ha)	ブドウ 生産量 (1000トﾝ)	ワイン 生産量 (1000トﾝ)
1979-81年	113	10691	1202	703
1990年	150F	10391	1559	952
1991年	150F	10428	1564	963*
1992年	150F	9667	1450F	930F

表11 サトウキビ

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トﾝ)
1979-81年	229	75509	17345
1990年	272*	66272	18026
1991年	275*	71607	19692
1992年	260*	71154	18500F

表12 キャベツ

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トン)
1979-81年	5	43528	217
1990年	6F	36667	220
1991年	6F	38333	230F
1992年	6F	33333	200F

表13 トマト

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トン)
1979-81年	12	26900	323
1990年	15F	30333	455
1991年	15F	33333	500F
1992年	15F	32000	480F

表14 ニンジン

	収穫面積 (1000ha)	収量 (kg/ha)	生産量 (1000トン)
1979-81年	3	33730	106
1990年	3F	29000	87
1991年	3F	30000	90F
1992年	3F	28333	85F

表15 カンキツ類

	オレンジ 生産量 (1000トン)	レモン及びライム 生産量 (1000トン)	グレープフルーツ及びポメロ 生産量 (1000トン)
1979-81年	581	43	109
1990年	712	55	124
1991年	678*	62*	132*
1992年	690*	63*	120*

表16 イチゴ／綿花

	イチゴ 生産量 (1000トン)	綿花 生産量 (1000トン)
1979-81年	2836	54
1990年	5000F	52
1991年	5000F	31
1992年	5000F	22*

表17 家畜頭数：馬／牛／豚

	馬 (1000頭)	牛 (1000頭)	豚 (1000頭)
1979-81年	225	13647	1339
1990年	230F	13398*	1480F
1991年	230F	13512*	1490F
1992年	230F	13585*	1490F

表18 家畜頭数：羊／山羊／鶏

	羊 (1000頭)	山羊 (1000頭)	鶏 (1000000羽)
1979-81年	31625	5744	30
1990年	32665*	5880F	39F
1991年	32580*	5900F	40F
1992年	32110*	5900F	40F

表19 生産量：食肉計／馬肉／家きん肉

	食肉計 (1000ト)	馬肉 (1000ト)	家きん肉 (1000ト)
1979-81年	1081	1	233
1990年	1348	1F	384F
1991年	1377	1F	394F
1992年	1392	1F	374F

表20 生産量：牛・子牛肉／羊・子羊肉／山羊肉／豚肉
牛・子牛肉 羊・子羊肉 山羊肉 豚肉
(1000ト) (1000ト) (1000ト) (1000ト)

1979-81年	590	133	28	87
1990年	661*	133F	34F	125F
1991年	678*	133F	35F	126F
1992年	716*	130F	35F	126F

表21 生産量：牛乳(全乳、生)／チーズ(全種類)／バター及びギー

	牛乳 (1000ト)	チーズ (ト)	バター及びギー (ト)
1979-81年	2553	30974	17678
1990年	2475*	42487	16661
1991年	2300*	42302	21420
1992年	2390*	45000*	16000*

(1992 FAO Production Year Book, Vol.46より抜粋)

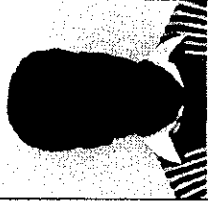
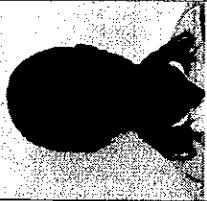
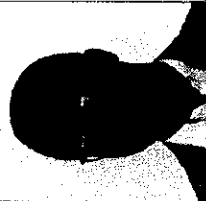

参考文献

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 南アフリカ共和国農業分野研修員レポート | 国際協力事業団、1990～1994年 |
| 南部アフリカ地域援助研究会報告書 | 国際協力事業団、1994年2月 |
| 南部アフリカ ポスト・アパルトヘイトと日本 | 勁草書房、1992年7月 |
| 新生南アフリカと日本 | 勁草書房、1994年4月 |
| 南アフリカ 経済・貿易の動向と見通し | ARCレポート 世界経済情報サービス
1993年2月 |
| 種苗界 5～7P | 1994年12月号 |
| 朝日新聞 | 1994年5月12日 |
| アフリカ日本協議会シンポジウム資料 | 1994年10月8日 |

LIST OF PARTICIPANTS SOUTH AFRICA・AGRICULTURE GENERAL (Vegetable) COURSE (1991)

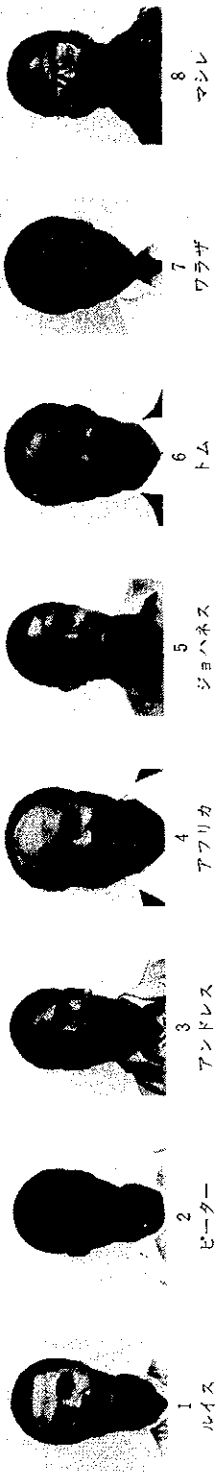
平成 3 年 南ア特設・農業一般 (野菜) コース研修員名簿

(研修期間 1991年11月28日～1992年2月28日)

Photo	No.	Name (呼称名)	Age (年齢)	Country (国名)	Present Post and Address (現職および住所)	Remarks (備考)
	1	Mr. Henry Clive <u>Chawane</u> (チャワナーネ)	32	South Africa (南アフリカ共和国)	Agriculturalist, Rural Advice Centre, P.O.Box 358, Johannesburg 2000, (ルーラルアドバイスセンター農業指導員)	
	2	Mr. Mamogaudi J.B. <u>Maloa</u> (マロア)	30	South Africa (南アフリカ共和国)	National Convenor and Researcher, National African Federated Chamber of Commerce and Industry (NAFCOC), Private Bag x81, Soshanguve, 0152 (全国黒人商工会議所研究員)	
	3	Mr. Siphwe F.M. <u>Mkhize</u> (ムキゼ)	32	South Africa (南アフリカ共和国)	Research Fellow (Extension Agronomist), Farmer Support Group, University of Natal, P.O.Box 375 Pietermaritzburg 3200 (ナタール大学農民支援グループ研究員)	
	4	Mr. Lawrence <u>Mogale</u> (モハレ)	33	South Africa (南アフリカ共和国)	Agriculturalist, Agricultural Section, African National Congress, Plein Street, Johannesburg 2000, (アフリカ民族会議農業部農業指導員)	

LIST OF PARTICIPANTS SOUTH AFRICA · GENERAL AGRICULTURE (Vegetable) COURSE (1992)

平成4年南アフリカ特設・農業一般(野菜)コース研修員名簿(研修期間1992年11月9日～1993年2月6日)



No.	Name (呼称名・研修員番号)	Age (年齢)	Present Post and Address (現職及び住所)	Remarks (備考)
1	Mr. <u>Louis Van Wyk</u> (9205290) (ルイス)	32	Co-ordinator and Development Fieldworker, Kamiesberg Development Association, P.O. Box 47 Kamieskroon, 8241 Namaqualand (カミエスブルグ開発協会 調整員兼フィールドワーカー)	
2	Mr. <u>Mbana Peter Thabethe</u> (9205291) (ピーター)	26	Agricultural Advisor, Kangwane Department of Agriculture, Private Bag x1005, Louw's Creek 1302 (カングワネ農業部 農業技術指導員)	
3	Mr. <u>Thingoa Andries Mahlase</u> (9205292) (アンドレス)	29	Agricultural Economist, Lebowa Agricultural Corporation, Private Bag 52, Lebowakgomo 0737 (レボワ農業公社 農業エコノミスト)	
4	Mr. <u>Africa Lindelihle Mazibuko</u> (9205293) (アフリカ)	40	Manager and Training Officer, Africa Tree Centre, P.O. Box 418 Plessislaer, 4500 Natal. (アフリカ・ツリーセンター マネージャー兼研修担当)	
5	Mr. <u>Modise Johannes Mapogoshe</u> (9205294) (ジョハネス)	37	Training Officer, BOSKOP Training Centre, P.O. Box 378, Potchefstroom 2520 (ボスコップ総合職業訓練所 農業技術指導部長)	
6	Mr. <u>Tom Zwane</u> (9205295) (トム)	37	Representative, Thebe Investment Corporation, 18th Floor Glencairne Building, 73 Market Street Johannesburg (チベ投資信託公社 代表)	
7	Mr. <u>Walaza Amos Mazule</u> (9205300) (フラザ)	27	Co-ordinator, Isinamva Community Development Centre, P.O. Box 72 Mount Frere 4870 (イシナムバ農業開発協会 調整員)	
8	Mr. <u>Israel Morage Mashile</u> (9205298) (マンレ)	37	Agricultural Development Adviser, Agriwane, P.O. Box 1330 Nelspruit 1200 (アグリワネ農業開発アドバイザー)	

LIST OF PARTICIPANTS SOUTH AFRICA · VEGETABLE PRODUCTION AND ITS IRRIGATION METHOD COURSE (1993)
 平成5年 南アフリカ特設・野菜栽培と灌漑方法コース研修員名簿 (研修期間1993年9月20日～1993年12月18日)



No.	Name (呼称名)	Age (年齢)	Present Post (現職)	Remarks (備考)
1	Mr. <u>Tshekelo Albert Matheketlha</u> (アルバート)	32	Training Instructor, Agricultural Crop Production Division, Boskop Training Centre :P/BAG X500, Boskop 2528, South Africa ボスコップ職業訓練センター 作物生産部 農業技術講師	D9305005 9/20
2	Mr. <u>Dingamlehli Elmon Shabangu</u> (エルモン)	37	Senior Agricultural Advisor, Gazankulu Farmers Union, National African Farmers Union :P/BAG X577, Ciyani 0826, South Africa 国家農民組合 ガザンクル農民組合 農業技術指導員	D9305007 9/20
3	Mr. <u>E. S. Mosoma</u> (モソマ)	29	Senior Agricultural Officer, Extension Division, Lebowa Government :P/BAG X9359, Bushbuckridge 1280, South Africa レボワ州改良普及局 農業指導員	D9305008 9/20
4	Mr. <u>Sivanathan Yoganathan</u> (ヨガナサン)	30	Specialist Agriculture Advisor, ARDRI University of Fort Hare :P/BAG X1314, Alice, South Africa フォートヘア大学 高等農学農村開発研究所 農業技術指導員	D9305009 9/22
5	Mr. <u>Wally Tyrone Mmutle</u> (フリー)	34	Programme Coordinator, Rural Development Division, AGRICOR :P/BAG X2137, Mmabatho, Bophuthatswana, South Africa ボブタツワナ農業公社 農村開発部 計画調整員	D9305010 9/20
6	Mr. <u>Thomas Dikobe Tlhale</u> (トマス)	42	Extension Agronomist, Farmer Support Group, University of Natal :P.B.Box 375, University of Natal, Pietermaritzburg, Natal, South Africa ナタール大学 黒人農民支援施設 農業改良普及指導員	D9305011 9/20
7	Ms. <u>Nelani Selinah Mabuza</u> (ネラニ)	34	Agriculture Advisor, Community Development Division, Kangwane Department of Agriculture :P/BAG X1005, Louws Creek 1302, South Africa カンダングワネ農業公社 地域開発部 農業指導員	D9305659 9/22

LIST OF PARTICIPANTS LOW INPUT VEGETABLE CULTIVATION FOR
RURAL DEVELOPMENT FOR REPUBLIC OF SOUTH AFRICA (1994)

平成6年南アフリカ農村開発のための低投入型野菜栽培コース研修員名簿(研修期間1994年9月19日～12月17日)



No	Name (呼称名)	Age (年齢)	Present Post and Address (現職及び住所)	Remarks (備考)
1	Mr. <u>Ben</u> <u>Matiwane</u> (ベン)	32	Crop Specialist, Rural Development Division, Eastan Region of North West 北西地方開発公社 農村開発部 作物指導員	D9403666
2	Mr. <u>George</u> <u>Obed Xaba</u> (ジョージ)	25	Assistant Agricultural Advisor, Department of Agricultural and Forestry 農業省 農業指導員	D9403658
3	Mr. <u>Mandlenkos</u> <u>Ephraim Zondi</u> (マンザ)	32	Agricultural Advisor, Department of Agricultural and Forestry 農業省 農業指導員	D9403659
4	Mr. <u>Patrik</u> <u>Hlekani Ntabeni</u> (パット)	27	Agricultural Counsellor, Gazankulu Development Corporation カザンクル開発公社 農業指導員	D9403661
5	Mr. <u>Stampu</u> <u>Johannes Tshaka</u> (スタンプー)	46	Senior Training Officer, Highlands Development Corporation ハイランド開発公社 研修指導員	D9407233
6	Mr. <u>Henry</u> <u>Cook</u> (ヘンリー)	31	Agricultural Development Technician, Department of Agricultural 農業省 農業開発技師	D9403662
7	Ms. <u>Yvonne</u> <u>Yolisa Gladile</u> (ヨリサ)	28	Agricultural Scientist, Department of Agricultural and Forestry 農業省 農業指導員	D9403664
8	Ms. <u>Marina</u> <u>Van Zyl</u> (マリナ)	24	Agricultural Scientist, Grootfontein Agricultural Development Institute フルートフォンテン農業開発公社 農業指導員	D9403665

LIST OF PARTICIPANTS RURAL DEVELOPMENT AND SMALL SCALE FARM
HOUSEHOLD MANAGEMENT FOR REPUBLIC OF SOUTH AFRICA (1994)

平成6年度 南アフリカ農村開発と小規模農業経営改善コース研修員名簿 (研修期間1994年11月7日～12月17日)

No	Name (呼称名)	Age (年齢)	Present Post (現職及び所属先)	Remark (備考)
1	Ms. Ester KOSTER (エステ)	30	Development Officer, Department of National Health and Population Development (保健人口開発省開発オフィサー)	D9403668 309
2	Mr. Bongga D. MSOMI (ボンガ)	29	Agricultural Scientist, Department of Agriculture, Kwazulu-Natal (クワズール・ナタール州農林局農業科学者)	D9403669 203
3	Mr. Maben Ben MAHLANGU (ベン)	31	Specialist in Economics Department of Agriculture and Environmental Affairs Eastern Transvaal (東部トランスバル州農業環境局経済専門家)	D9403670 240
4	Mr. Mbana Peter THABETHE (ピーター)	28	Agricultural Advisor Department of Agriculture and Environmental Affairs Eastern Transvaal (東部トランスバル州農業環境局農業指導官)	D9403671 230
5	Mr. Raymond Lionel MORSE (レイモンド)	35	Assistant Director, Non-Formal Training Lowveld Agricultural College (ロウヴェルド農業大学非公式訓練アシスタントディレクター)	D9403672 228

主張・解説

南ア経済は立ち直れるか

黒人の大きな期待にこたえられず、財政赤字が増え、経済は行き詰まる。富裕層への増税で、白人の国外脱出が急増するかも知れない。経験のない黒人が白人のポストを奪って、汚職と乱脈が広がるのではないかと。三十五年の白人支配が終わり、マンデラ大統領の下で、すべての国民が平等な社会へと再出発する南アフリカの未来について、さまざまな憶測が出ている。サハラ砂漠以南の経済の四割を占める国とはいえ、経済面でもアパルトヘイト(人種隔離)の後遺症を取り除くのは容易ではない。クロムやマンガンなど鉱物資源を南アに依存する日本としても今後の行方を見守る必要があるが、つぎを見守る状況はそれほど悲観的ではない。

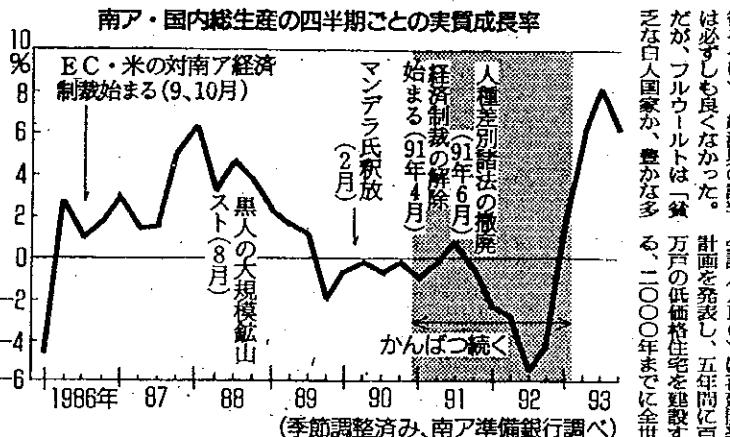
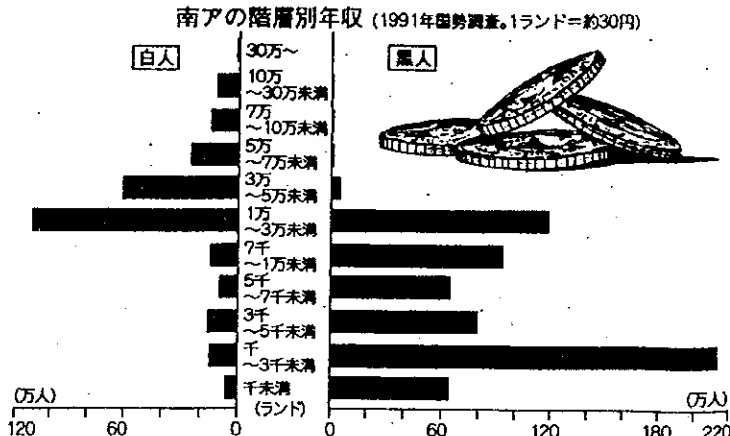
5%成長も

南ア北部にあるトランスバールの平均的な白人農場主の家族を訪ねた。素朴な暮らしだが、ゆとりがあり、左近に白人労働者の住居が並ぶ。黒人の所得は、白人の八分の一ほどだ。白人は国内総生産(GDP)に占める農業の割合は五分の一に過ぎない。産業の中心は製造業や流通、サービス業に移っている。再建は、黒人が見られない。むしろ、アパルトヘイトが残り、ANCは農地改革による黒人農家の育成を主張し、農地を両立させようという筋

格差是正の費用カギに

下がり、金やダイヤモンドをめぐり、再建計画にかつてANCが推進した社会主義的色彩はない。一国有化の文字は、黒人が見られない。むしろ、アパルトヘイトが残り、ANCは農地改革による黒人農家の育成を主張し、農地を両立させようという筋

ていだが、農村の貧困対策の色合いが強い。再建戦略としては、黒人企業家への支援をかねた中小企業の振興や、設備投資の奨励、ダイヤモンド採掘から金融業まで支配する五大企業グループが全企業の九割を傘下に収める寡占の解消、輸出の四分の三を占める鉱物資源の加工工程を引き上げ、付加価値をつけることなどを重視する。経済の活性化で五年以内の成長率を五分に上げ、農業以外の分野で三十万人以上の新たな雇用をつ



黒人に土地分配、自立促す



クリフカット農場はトランスバル西部の乾燥した平原にある。さつと八百の土地ではトウモロコシが

はだして遊ぶ黒人居住地の子供。アパルトヘイト後の南アは彼らが担う4月10日、ヨハネスブルク郊外のトコサで、住居を

五大企業グループの二ツジエンコー会長



我々が心配するのは暴力の増加だ。外国からの投資にも影響する。もう一つは海外からの投資の魅力が減少

暴力排除と健全な政策が必要

我々の技能労働者不足は深刻だ。能力のある黒人を昇進させようという年も努力

五大企業グループの一つで、オランダ移民の子孫であるフリカーナー系が乗ったジェンコーの会長に経済人の立場から南アの将来性を問いた。

健全な財政政策がとられる。公共事業で雇用を創出する

補償はほとんどなく、移住先はひどい荒れ地だ。三、四、離れた井戸の水は塩水で、そのまま飲めば腹下りする。煮たき用のマ

JICA